

▽第12部＝今村慎吾
▽第13部＝山岸剛
▽第14部＝田中牧場
▽第15部＝大久保大輔（清水町）

◇ジャージー種

▽ジュニアチャンピオン＝木村達也（大樹町）
▽シニアチャンピオン＝エスティリアデイリースービス
（広尾町）

▽リザーブジュニアチャンピオン＝同
▽リザーブシニアチャンピオン＝同
▽第17部＝木村達也
▽第18部＝エスティリアデイリースービス
▽第19部＝同
▽第20部＝同

和牛全共 鹿児島で開幕 十勝勢も堂々行進 全国から3000人

2022年10月6日（木）

【鹿児島県霧島市】和牛改良の成果や肉質・肉量を競い合う第12回全国和牛能力共進会鹿児島大会（和牛全共、全国和牛登録協会主催）が6日、鹿児島県霧島市で開幕した。全国から出品者や関係者ら約3,000人が集まる中、十勝の生産者ら道出品団も堂々と入場した。同日午後から審査が始まり、10日に閉会する。

5年に1度開かれ、「和牛のオリンピック」とも称される大会。和牛らしい体形や品位など改良の成果を審査する「種牛の部」と、と畜して肉質や肉量を競う「肉牛の部」の二つの部で行われる。今大会のテーマは「和牛新時代 地域かがやく新時代」。生産現場や消費の環境変化を踏まえ、肉牛の部に「脂肪の質評価群」が新設され、特別区として高校・農業大学校の部が設けられた。

月齢などの条件で分けた計8区と特別区に、41道府県から選ばれた438頭が集まった。道出品牛は22頭で、このうち十勝からは過去最多の19頭が参加し、それぞれ3位以内を目標にしている。

開会式は、種牛の部の審査会場となる特設テント内で開かれた。入場行進は道出品団が先頭で、宮前裕治副団長（十勝和牛振興協議会長、池田町）が旗手を務めた。

開会式後、第6区に初出品する篠島太郎さん（34）＝豊頃町＝は「会場に入って拍手を受けて気持ちが良かった。ここに連れてきてくれた牛に感謝したい」。道出品団の武隈英和主将（豊頃町）は「いよいよ始まる。目標達成に向けて牛を信じて取り組みたい」と抱負を語った。

審査会場に隣接した催事会場でも、全国のブランド牛のPRや試食、和牛を学ぶイベントなど多彩な和牛の祭典が始まった。



開会式で宮前副団長を先頭に入場行進する北海道の出品団（鹿児島県霧島市）

管内初 和牛全共3位

十勝和振と池田改良組合 鹿児島大会 来場30万人

2022年10月11日（火）

【鹿児島県霧島市】第12回全国和牛能力共進会鹿児島大会（和牛全共、全国和牛登録協会主催）は10日、上位入賞牛によるパレードと閉会式を行い閉幕した。道代表は8、9日の最終審査で、第4区（繁殖雌牛群）で十勝和牛振興協議会が、第5区（高等登録群）で池田町和牛生産改良組合が、十勝勢では過去最高となる優等賞3席をそれぞれ獲得した。大会には催事を合わせて30万人が来場した。2027年の次回大会は北海道で開催される。

同大会は国内最大級の家畜品評会で、5年に1度開かれる。生体のまま体形や品位など和牛改良の成果を審査する「種牛の部」と、と畜して肉質や肉量を評価する「肉牛の部」で行われ、両部は月齢などの条件別に計8区で

競った。高校・農業大学校による特別区を含めて、今回は41道府県から437頭が集まった。

地域で3代以上生産されてきた特色ある雌牛3頭1組が対象の第4区には、同協議会から大原裕樹さん（40）